

学校経営方針(中期経営目標)		昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
「自律する人間」の育成をめざし、教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、グローバル時代に期待される人材として次の6つの資質・能力を育む。 ①歴史をとおして世界を俯瞰する力 ②多様な文化的背景を持つ人と協働する力 ③科学的に思考・吟味する力 ④新たな価値を創造する力 ⑤課題解決の枠組みをデザインする力 ⑥困難な状況を突破する力		学習指導：「授業で学力をつける」ことを学校全体で意識して取り組み、主体的に学習に取り組む態度を養った。探究的な学びに取り組み、発表の機会を設けることで生徒の表現力を育むことができた。一方で、自分の考えていることを活字化する、文字を書き情報を整理、記憶を定着させるという取組については、各教科の特性を踏まえつつ、ICT活用とのバランスを踏まえながら、意識的に取り組んでいく必要がある。 生徒指導：闇バイトや薬物乱用など、SNSを介してつながりやすい犯罪等について、その未然防止に向けて意識的に啓蒙を行った。落ち着いた教育環境を維持できているが、自ら安全を確保する自覚を促す指導を継続したい。また、ボランティアを通じて社会参加する生徒が少ないため、参加を促したい。 人権教育：「LGBTQ+」を取り入れた3年間の人権学習計画が整った。人権学習の前後には「人権だより」を全学年で発行し、学習効果が一時的なものにならないように取り組めたが、次年度は学校全体で共有し、教科指導等で活用できるよう取り組む必要がある。 進路指導：総合型選抜については、学年別指導計画を早期に検討・作成し、学校全体で見通しを持った指導ができるようにする必要がある。学力の指標を模試に置き、その分析と授業アンケートによる授業改善を繰り返しながら、授業力向上の取組を継続する。また、大学入学共通テストの出願手続きの電子化に対応する必要がある。 情報教育：一人一台端末について、MDM(モバイルデバイス管理)が外されたが、校内では適切に使用されている。今後は学校外での効果的な利活用を促していく。ICTを活用した授業が標準的に行われているが、学力向上に有効であるかどうかについては、常に意識しておく必要がある。 読書指導：図書館や図書委員から積極的に生徒向け案内(新着図書、おすすめ本紹介等)を出し、図書館利用を促せた。イベントを積極的に実施することで、身近な図書館の実現に取り組んだ。探究活動等でも活用しやすいよう、図書資料の整理と充実を図りたい。 施設設備・文書・情報管理：エアコンの入れ替えが完了し、テニスコート4面、グラウンド、陸上競技用のタータンが改修されたことで、より充実した教育環境が整った。	(1) 自他尊重の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。 (2) 授業、学校行事、部活動を通じて対話や議論を重視し、学んだことを整理、体系化・系統化、応用、共同思考する力を育て、個性伸長と自律する人間の育成を図る。 (3) ICTを活用し、グローバル社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸長し、希望進路の実現を図る。 (4) 「授業を中心とした学習だけで大学に行ける学校」をモットーに、教職員間で一致した受験指導を行う。 (5) 単位制の特長を活かしながら、新学習指導要領のカリキュラム及び大学入学共通テストを見据えた科目研究をさらに進める。 (6) 本校の教育実践や生徒の活動を中学生や保護者に積極的に広報する。 (7) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。		

評価領域	重点目標	具体的方策	総括		成果と課題
学習指導	単位制の特長を活かしたりベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。	生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。			
		単位制及び観点別評価の実施による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。			
		スポーツ・教養コースにおける探究活動を発展させる。			
		学んだことや自分の考えを活字化することで情報を整理しながら記憶の定着を図り、表現力を向上させる。			
生徒指導	ルールとマナーを守る態度を育成する。	挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。			
		無断撮影、特殊詐欺、消費者被害等、SNSを介した犯罪に巻き込まれないよう未然防止の取組を行う。			
	これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。	生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力と社会参加への意識を養う。			
		部活動を通して、技能を習得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。			
組織的にいじめの未然防止を図る。		いじめについての理解を深めるとともに、日頃から人権意識を高め、生徒から相談されやすい関係を醸成する。			
人権教育	あらゆる教育活動をととして人権教育を推進する。	自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進する。			
		人権学習の事前、事後指導を効果的に行うよう工夫する。			
進路指導	生徒一人一人の進路希望を実現する。	ICTを活用した入学者選抜（個別学力検査のCBT等）に対応できるよう指導方法を研究する。大学入学共通テストについて、出願手続きの電子化に的確に対応し、そのノウハウを蓄積する。			
		国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜を含む多様な入試に対する学年別指導計画を作成し、実践する。			
	職業観・勤労観を育成する。	望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。			
情報教育	タブレット等のICT機器を活用し、広く（グローバルに）、新時代（AI、Society 5.0）を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。	情報モラル・情報リテラシーを身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。			
グローバル人材育成	WWL事業実施校、グローバルネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。	平常の授業に加え、国内外の人々との対話や協働活動をととして、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。			
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難の改善を図る。			
読書指導	読書活動を推進する。	図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動で、図書館利用を促進して読書活動を活性化する。			
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。			
施設設備・文書・情報管理	学習環境の質を確保する。	生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向けて施設・設備の充実を図る。			
	個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。	紙文書、デジタルデータともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。			

学校運営協議会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	